

# 令和5年度 こども園（保育園）関係者評価

## 施設評価シート

子育てセンターにじいろ

### こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和6年 2月 28日 10:00 ~ 11:00

### 【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

### 【園の教育・保育目標】

わたっていいな あなたもいね じぶんできめる みんなのために

### 【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

令和4年4月に開園した子育てセンターにじいろは、袋井市の公立3園を統合民営化し幼保連携型認定こども園となり今年2年目を迎えました。にじいろに一堂に集まった子どもたちの心情を受け止め職員一人ひとりが当園の教育・保育目標「わたっていいな あなたもいね じぶんできめる みんなのために」のもと教育・保育を進めてまいります。わたっていいなと思える気持ちを大切に、子どもにとって、職員にとって、尊敬を守った保育と4つの承認（存在・意欲・行動・成果）を実践してまいります。今年度の重点目標は教育・保育目標の中から「わたっていいな」として、こども同士、こどもと職員、職員同士さらに地域の関りの中で個々の素敵などころにたくさん気づき、自己肯定感を高め次へとつながるやってみよう、やってみようとする気持ちを育む保育を目指してまいります。職員の取り組みとしては主体性を育む保育について学びを深めるために職員の得意分野・知識を職員に発表する機会を工夫して創りだし、得た知識技術を次の活動へつなげる保育となりにじいろの活動が楽しみになる保育を創りだしてにじいろの保育の質の向上となるよう、よりよい教育・保育の実践を展開していきたいと考えています。

### 【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
<b>I. 目標の理解</b> 1. グラウンドデザインを理解している 2. グラウンドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	○グラウンドデザインなどわかりやすく掲示されていて常に意識することができた。 ○年度初めに経営書などを読んで、意識できた。 ○重点目標「わたっていいな」として、お子さんの素敵な所を記入して頂く機会を作り、保護者と共に4つの承認を実践することができた。 ●全体的には理解しているが、細かい理解が十分ではない。	4	○グラウンドデザイン等、職員に周知・共有されていると感じた。 ○取り組みの様子を聞いて行っていることが伝わった。
<b>II. 教育・保育の計画性と内容</b> 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	○学年内で密に連携し共通意識の中で保育を行った。 ○友達とのトラブルにおいて子どもが自分の気持ちを伝えられるようになってきた。 ○継続してリズムに取り組むことで、主体的に取り組む姿が増えた。 ○子どもの姿を認める職員の声掛けが増えた。 ●保育計画については、PDCAサイクルを機能させ、次の計画に反映させる習慣づけが職員の課題である。 ●様々な個性のある子どもの対応に難しさを感じた。 ●物の扱いが乱暴になりがちで、指導に難しさを感じた。	3	○3歳児から5歳児での異年齢でのコーナー保育の形ができたとのことで主体性を大切にしていることが伝わる。 ●保育計画のPDCAは引き続き、取り組んでいくとよい。
<b>III. 子どもにとっては</b> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	○様々な子がいる中で職員がどの子にも同じように接し、子どもの中に自然に多様性を受け入れる気持ちが育った。 ○職員の中の多くの視点があるので、子どもを多面的に見ることができた。 ○特に以上児は、異年齢が交流できるコーナー保育を計画的に実施し、年齢の枠を超えた関りを深めることができた。 ●実際に災害が起きたときに活かせる、防災訓練の方法を考える。	4	○資料を読ませてもらい素晴らしい環境の中で保育してもらっていると感じた。 ○昨年に比べ登園時に泣いている子が減っていると思う。 ○子どもはとても楽しんでおり、土日ににじいろに行きたいと言っている。 ●親としては園のことをもっと知りたいと感じる面もある。

<p><b>IV. ファミリーにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に相談できる</li> <li>2. いつでも保育に参加できる</li> <li>3. 必要な情報が得られる</li> <li>4. 保育を通して地域に親しむ</li> </ol>	3	<p>○参加会や懇談会、面談で丁寧に子どもの様子を伝えることができた。</p> <p>○ブログの更新回数を増やし、園の教育・保育活動を保護者に伝えている。</p> <p>○保護者ボランティアによる絵本読み聞かせの活動を通し子どもたちの様子を身近で見てもらうことができた。</p> <p>●南の丘学園の取り組みを職員に周知することで、園としての就学にむけた取り組みの理解につなげる。</p>	3	<p>○様々なご意見が挙がっているが、それだけ保護者の方が園に期待しているということ。</p>
<p><b>V. 地域にとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰でも親しく訪ねられる</li> <li>2. 園の内容がよくわかる</li> <li>3. 緊急の時頼りになる</li> <li>4. 子育てに夢がもてるように</li> </ol>	3	<p>○職員が支援センターの利用者に対して挨拶をする姿を見て、子どもたちから気持ちの良い挨拶をする姿が増えている。</p> <p>○支援センターがあることで来園する親子が園児の遊ぶ様子や生活する様子を気軽に見ることができ、自身の子育ての見通しをもつことにも繋がっている。</p> <p>●職員が支援センターやそよかせの取り組みをもっと知ることで、保護者への情報発信ができる。</p>	3	<p>○にじいろは2年目これから地域に根付いていくと期待している。</p> <p>●小学校も地域との連携が課題となっている。地域の力を借りる必要がある。</p>
<p><b>VI. スタッフにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個性が生かされる</li> <li>2. 快適な職場づくり</li> <li>3. 生活や遊びの文化が伝えられる</li> <li>4. 視野を広げて自ら学ぶ</li> </ol>	4	<p>○様々な研修の機会を設けたことで、職員が主体的に学ぶことにつながった。</p> <p>○特技を活かしながら互いに認め合い、自分らしく仕事をすることができた。</p> <p>○毎月接遇マナーの目標を掲示することで意識して対応することができた。</p> <p>●伝統的な遊びやわらべうたなどの知識が浅く、子どもに遊びを提供できていない為学びを深めたい。</p>	4	<p>○先生方も1年目より2年目の方が見通をもって働いているのではないかと。</p>